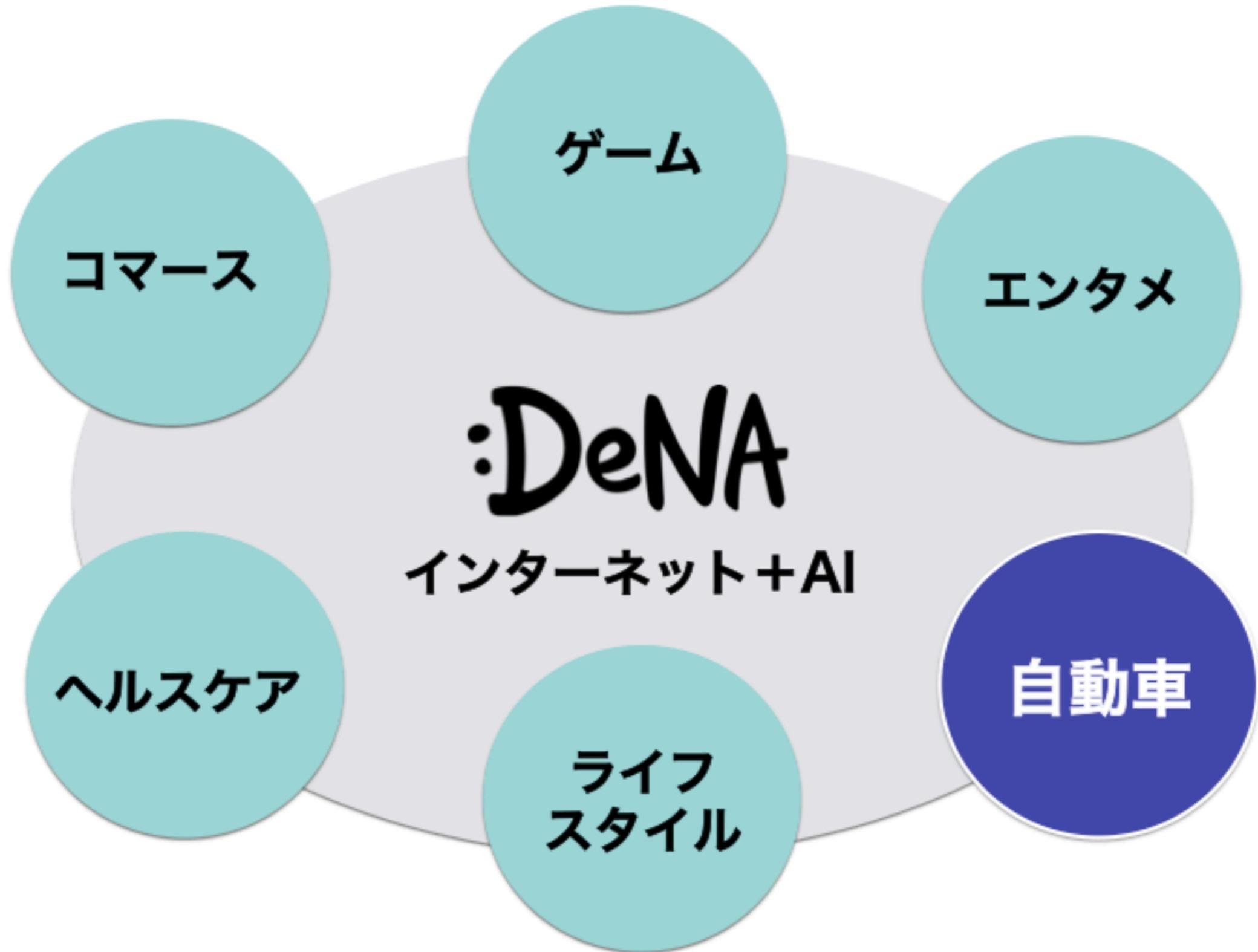


自動走行サービスに関する DeNAの取組

The logo for DeNA, featuring a stylized smiley face icon to the left of the word "DeNA" in a bold, rounded, sans-serif font.

Sep. 13, 2016

DeNAビジネスの全体像



オートモーティブ事業の現在の事業

オートモーティブ事業部

 **Robot Taxi**
ロボットタクシー株式会社

ロボットタクシー構想を実現することを目指す。
ZMPとの合併会社として設立。

Anyca
Anyca エニカ

個人間でクルマをシェアする
新しいカーシェアサービス。

 **akippa**
akippa株式会社 (持分連結)

1日単位で月極駐車場を貸せる&使える 駐車場シェア

RS Robot Shuttle
ロボットシャトル

公道で事業を行うロボットタクシーに対して、
ロボットシャトルは私道・私有地エリアを事業化。


ロボネコヤマト

自動運転を活用して、ラストワンマイルの次世代運
輸事業を実現する。ヤマト運輸との共同実用実験。

RS Robot Shuttle

ロボットシャトル:

- 自動運転技術を使った私道(クローズドエリア)での移動サービス
- 大学、工場、空港などで展開予定



$$\text{RS Robot Shuttle} = \text{DeNA} \times \text{EASY MILE}$$

DeNA



ヤマト運輸



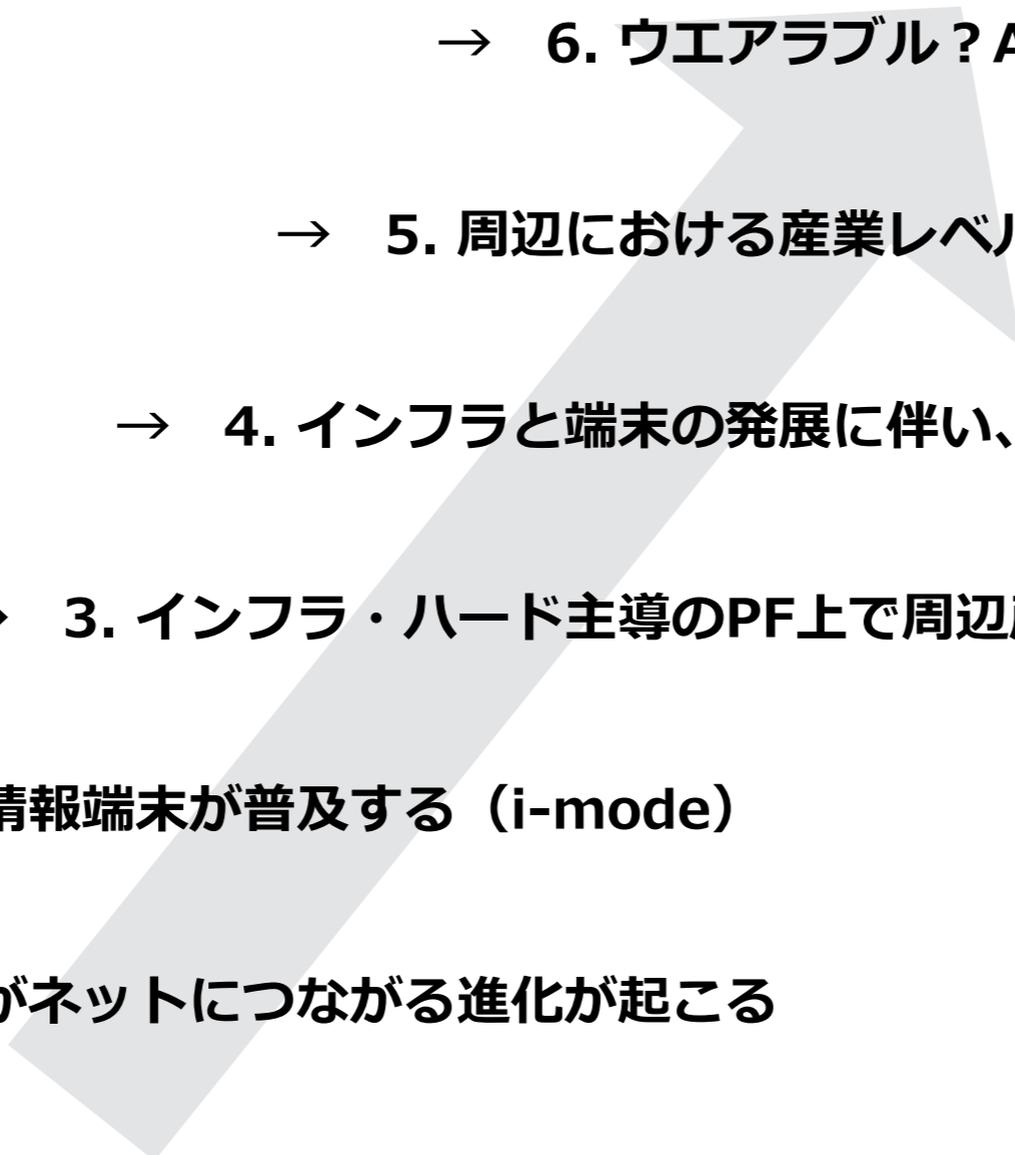
ロボネコヤマト

ロボネコヤマトの配送車イメージ - 側面 (ドア開)



インターネットビジネスからみた自動車産業の見える方

クルマをケータイの歴史になぞらえると、まだi-mode前夜。

- 
- 6. ウェアラブル? AI?
 - 5. 周辺における産業レベル（音楽/ゲーム等）の構造変化
 - 4. インフラと端末の発展に伴い、ローカル→クラウドの流れ
 - 3. インフラ・ハード主導のPF上で周辺産業が勃興（ケータイコンテンツ）
 - 2. 情報端末が普及する（i-mode）
 - 1. デジタル端末がネットにつながる進化が起こる

ケータイの今

自動車はイマココ

我々がオートモーティブ領域で 特に注目しているマクロトレンド

マイカー市場
“所有から利用”



旅客&運輸市場
“無人運転技術”



自動走行技術を用いたビジネス展開の全体像

各領域毎に提携パートナーと密接に連携し、事業を展開予定。
DeNAはモビリティサービスプロバイダーのレイヤーを主体的に担っていく方針。



自動運転関連事業におけるDeNAのポジション



車両



自動運転技術



インフラ

モビリティサービスプロバイダー

DeNA



エンドユーザー

自動運転関連事業におけるDeNAのポジション

モビリティサービスプロバイダー



車両



自動運転技術



インフラ



ユーザーレイヤー
(配車依頼/支払いなど)



オペレーターレイヤー
(電話対応/予約管理/危機対応など)



車両レイヤー
(ルート設定/車両制御システム連携など)



クラウドシステム
(車輛/決済/車両管制など)



エンドユーザー

モビリティサービスプロバイダーを実現させるための強み



**ユーザー体験のデザイン
使いやすいアプリ・サービス構築力**



**AIを活用した
配車・管制アルゴリズム**



ロボットタクシー
株式会社

Robot Taxi

ロボットタクシーは、日本が抱える諸問題の解決策としてLv4 無人サービスの実現を目指す

タクシー・バス事業者の運転手の不足と高齢化

過疎地における移動困難者の増加

国家目標である交通事故死者低減の実現

都会にすら存在する買物弱者の増加

訪問・通所が必要な要介護者の増加



- 「ドライバーレス」「安価で安全」を実現できるロボットタクシーは、理想的な解決策になりうる。

《実証プロジェクト1》

神奈川県藤沢市での有人自動運転実証実験概要

日時：2月29日（月）～3月11日（金）

場所：神奈川県藤沢市
湘南ライフタウン中央けやき通り

概要：

- ◆ モニターが、パソコンまたはスマートフォンで、配車予約します。
- ◆ 自動運転自動車が、モニターを、住居とイオン藤沢店間で送迎します。
- ◆ 自動運転走行は、中央けやき通りのみです。それ以外の道は、ドライバーが手動運転で走行します。
- ◆ 安全のため、必ずドライバー・オペレーターが運転席・助手席に乗車します。



《実証プロジェクト2》 伊勢志摩サミットでのデモンストレーションの実施



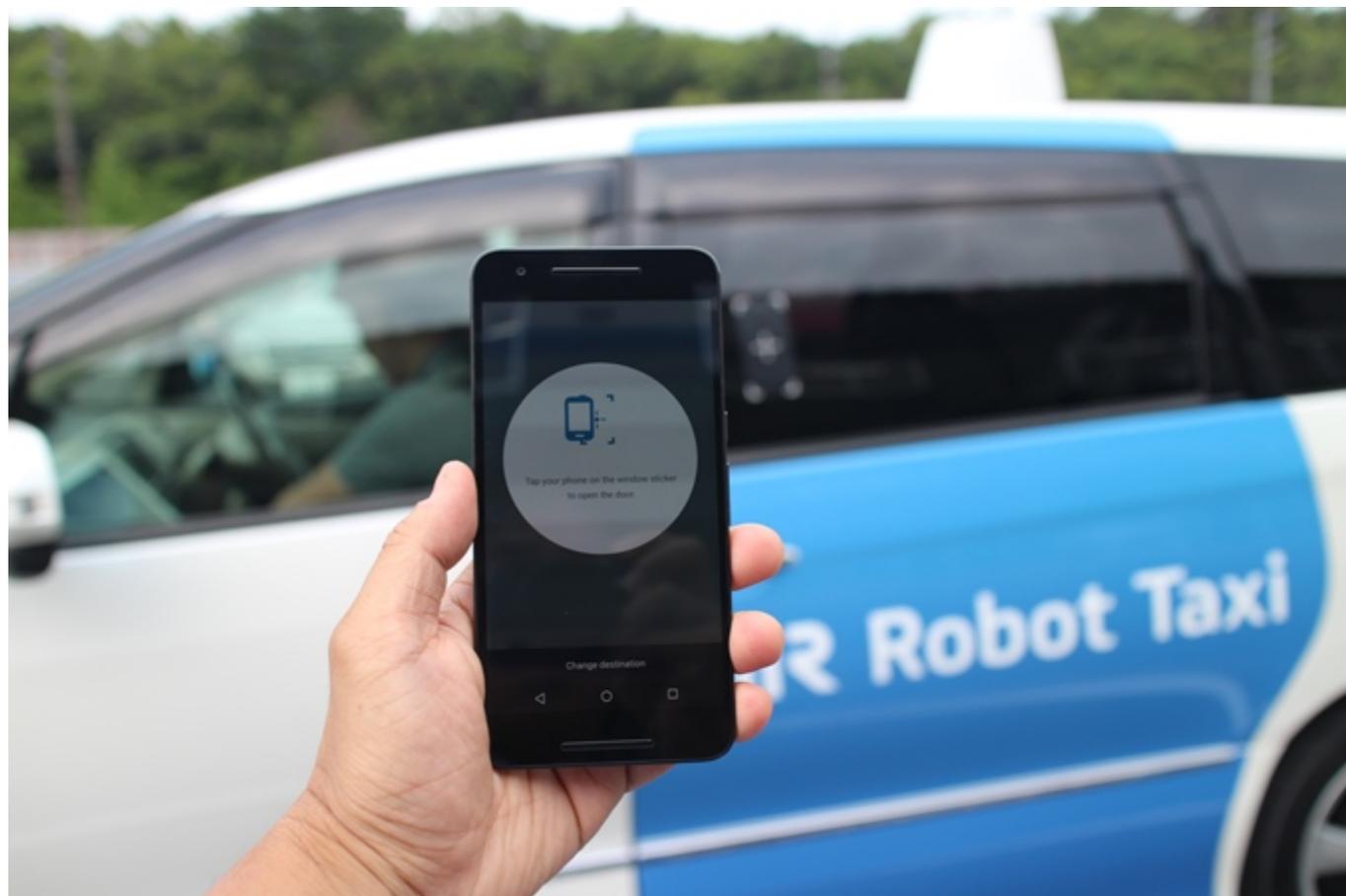
《実証プロジェクト2》 伊勢志摩サミットコンセプトデモ

場所・実施時期

- 伊勢志摩サミットメディア・センター前
- 2016年5月24日～29日
- サミットに参加していたメディアの方々

概要

- 将来の配車～降車までの一連のユーザーエクスペリエンスのコンセプトデモ
- 車両と連動したドアの開閉等



政府にお願いしたい規制緩和事項

- ◆ 2020年の東京オリンピックの年に限定された地域でもいいので、公道で無人運転車両が自由に走れる制度環境をお願いしたい。

- ◆ これに向けて、2017年に無人運転の公道実証実験ができる制度環境をお願いしたい。 具体的には、以下の2つが2017年までに実現できるようにお願いしたい。
 - ① 公道において、遠隔装置による監視があれば、車内にドライバーがいなくても、ドライバーがいる状態と同じとみなすという制度整備をお願いしたい。
 - ② 「ハンドルやアクセルのない自動運転車両」による公道実証実験を実施できるように制度整備をお願いしたい。